

特集●メタボリックシンドローム—現状とその課題

メタボリックシンドロームの保健予防対策の課題——大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座教授 磯 博康
メタボリックシンドロームの病態と診断——住友病院院長 松澤 佑次

国民健康・栄養調査からみた国民の健康課題と新たな健診・保健指導

厚生労働省生活習慣病対策室長 矢島 鉄也

国保ヘルスアップ事業実施の背景とその課題——国立循環器病センター予防健診部長 岡山 明

地域におけるメタボリックシンドローム予防対策の課題——茨城県常陸大宮保健所長 入江ふじこ

職域におけるメタボリックシンドローム対策の現状と課題

① 市職員の健康実態から始めたメタボリックシンドローム——尼崎市総務局職員健康推進担当 小川 朋子

② 職域におけるメタボリックシンドロームの現状と課題——富士電気リテイルシステムズ 五十嵐千代

メタボリックシンドローム対策と禁煙支援——大阪府立成人病センター調査部長 大島 明

●視点

公衆衛生を楽しむ——厚生労働省大臣官房厚生科学課長 藤井 充

●特別記事

[座談会] イギリスの公衆衛生システムから見えるもの——多田羅浩三・波多野あき子・水野 佳子・他

あ と が き

特集「がん対策」の第2弾は、2次予防としての「がん検診」を多角的視点から学べる内容となりました。また、がんの一部は、難治性の慢性感染症としての側面を併せもつこと、がんの1次予防には環境化学物質のリスク評価等の研究成果に基づく新たな環境対策が重要となること、およびがん患者のQOL向上に関する取り組みにもヘルスプロモーションの視点が重要であることなどを学ぶことができました。

ところで、年頭からの2回にわたる特集は、本年4月1日施行の「がん対策基本法」を意識した企画ですが、同法の条文を読む限り「がん検診の実施に関する責務がどこにあるのか(国か、地方公共団体か、保険者かなど)は明記されていない」という坪野先生のご指摘には、思わず「がーん!」とききました。がん検診は、平成10年度から老

人保健法による健康診査の項目から削除され、確かに実施主体が曖昧になっていました。診療報酬引き上げの財源確保のために、がん検診が削除(国庫補助金が一般財源化)されたという当時の噂を思い出しつつ、がん検診の受診率が全国的に伸び悩んでいる(市町村によっては低下している)現状を重ね合わせて考えると、本特集の「がん対策の経済学」を含めた玉稿を、当時の官僚や医療関係者をご覧になっていたら…と悔やまれるところです。

がん検診の受診率を上げるには、「現場の医師が検診の有効性に確信を持っていることが重要」と大重先生らが強調されております。今回の特集の内容を全国の「がん診療拠点病院」を通じて、より多くの医師に伝えられたらよいのですが……。

(阿彦忠之)

公衆衛生(第71巻 第2号) 2007年2月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2007 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行: 株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所: 三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所: (株) 東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン: デザイン・プレス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2007. Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLIS** (© 日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

桜山 豊夫 東京都福祉保健局保健政策部

高島 木敏雄 大阪大学・社会環境医学

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

今号は鼎談・インタビュー記事が3本あり、内容充実、どれも本質的な議論に踏み込み興味深いです。特別記事の鼎談「死にゆく人の地域在宅ケアを考える」は、「死」を病院の中だけで捉えるのではなく、縄文時代5000年も前から人類の「自然死」そして「文化」という側面から捉え直したいとの発言が印象的です。また2年間好評連載の「性のヘルスプロモーション」、いよいよ最終テーマを迎えて、神父さんご僧侶に登場いただき、性と宗教との接点を探ります。そしてインタビュー連載「エイズ対策を評価する」、感染者の方にお越しいただき、その生活ぶりを率直にお聞きました。今号も弊誌ならではの忌憚のない「いのち豊かな語り合い」、お楽しみください。(野中)

(担当/野中・天野)